

2018年

11月号

全国学童保育
研究集会特集

福岡県連協活動報告

福岡県学童保育連絡協議会

〒805-0067 北九州市八幡東区祇園2丁目4-22
TEL093-662-6000・FAX093-662-6006
E-mail gakuhoren@fukuoka-gkd.jp
発行・福岡県学童保育連絡協議会



第53回 全国学童保育研究集会
in神奈川に行ってきました!!

参加人数

4588名

元気いっぱいのパフォーマンスでお出迎え



ぶちあわせ太鼓

ステージいっぱいの子
どもたちによる歌で歓迎
行事がスタートしまし
た。続いて曲に合わせて
華麗なけん玉ダンスの披
露! かつこよかったです
よ。



けん玉ダンス



2018年10月20日、21日の両日、
神奈川県で開催した第53回全国学童
保育研究集会には、46都道府県から、
4588名の参加がありました。福岡県
からは、47名の参加でした。

関東学院大学・金沢八景キャンパ
スで開催した分科会では、31のテー
マ、56教室に分かれて交流・学習を
しました。この2日間で得ることが
できた学びや人と人とのつながりを
力に、地域での取り組みにつなげて
いきたいと思いました!!

記念講演

子ども時代は二度と来ない

「子供」が「こども」でいられるための5つの権利

早稲田大学名誉教授 増山 均さん

増山氏は、1970年以降、学童が大きく発展し、現在、新しいスタートラインに入っていると指摘。一方、学童保育に通う子どもの中には、「無罪刑務所」と思っている子どももいるとのべ、「親がどんなに必要で大切に思っている、子どもの側から考えることが大切だ」と強調しました。

生涯で0～20歳の子ども時代が最も重要な時期だと指摘。子ども期について、社会の一員、権利・生活の主体として考える。「子ども」、親、企業、国によって型にはめられた「子供」、あるがままの姿を捉える「こども」の3つの視点から分析しました。

戦後、意識的に「子ども」という言葉が意識的に広められてきたものの、現在、学力テストなど「子供」の世界に閉じ込めようとする動きがあると語りました。

このもとで、子どもの自由時間が急速に減少し、警戒的緊張状態で学校を過ごし、ストレスを抱えて学童、家庭に帰ってくるとのべました。

これに対して、学童保育が子どもの権利を承認する流れの最先端にあると語りました。そのうえで①安心して命と権利（養育）②学び、理解し、成長する権利（教育）③ゆっくり休み、楽しむ権利（遊育）④つまづき失敗しても、立ち直る権利（甦育 {そいく}）⑤子どもの参加権、自治権（治育 {ちいく}）の権利をふまえて、子どもとかかわり、「明日も行きたいと思える学童にすることが大切だ」と指摘しました。

最後に「子ども期を豊に発展させる取り組みを大きくすることを期待します」とのべると、盛大な拍手に包まれました。



手作りのおみやげ

受付で大きなバックを渡されました。その中に参加証が入っていました。紙ではなく手作りの「おみやげ」です。毎年各地域が工夫して、作っています。今回はストラップ！夏休みから子どもたちが作ってくれたそうです。ありがとう！大切にします！！

参加者からの感想

(遠賀・鞍手)

- ・やはり、全国研は子どもたちのオープニング今回のけん玉ダンスに圧巻、来年の京都にも行くぞ！（HM）
- ・増山先生の記念講演より「学童は無罪刑務所！何にも悪い事してないのに入れられてる！」と言った子どもの気持ちを考えると、とてもつらいものだった。自分が働いている学童が子どもたちにとってそういう気持ちにならないようにしなければと思った。増山先生のお話しは何度聞いても心に残る。また来年も学び合いたい。
- ・初めての参加でした。規模が違うことはもちろんだが、子どもたちの歓迎オープニングも感動、参加者の熱気に圧倒されながらも共に学び合い元気と勇気をもたらってきた。また来年も行きたい。

((直方) 今年は、保護者を含め7名で参加しました。

- ・神奈川連協の方からの事前情報で、横浜はナポリタン発祥の地であることを知り、事前にネット検索しまくり、1日目の昼食はみんなでナポリタンを食べて会場入りしました。全国研の最大の目的は学ぶことですが、せっかくなのでその土地の美味しい物を探して食べるのも楽しみのひとつになりつつあります。
- ・全国から集まる学童の仲間に出会える場所、そして、悩みや子どもの素晴らしさを共有できる貴重な場所です！また、明日から頑張ろうって思えます！是非一度参加してみてください！
- ・放課後という限られた時間の中で子どもたちがのびのびと自分の時間を使い遊び、人間力を育てていけることが学童に通う中での醍醐味であると思う。丁寧さと見通しのいる仕事であり、毎日が勉強だと思い、これからも頑張っていこうと思いました。
- ・保護者は仕事と家庭の両立で精一杯ですし、保護者会活動に参加する事に億劫な方がいるのも現実です。ですが、学童にこどもを預けている保護者はどの家庭も同じ条件です。子育ては1人で行わず、たくさんの大人が関わる事で親が1しか伝えられないことを10の大人で育てられる環境であってほしいと願います。こどもがいてくれたから、学童に預けたから作れる人間関係です。わずかしかない学童に預ける期間中、親子共々楽しめる父母会活動が出来たらと思いました。

(北九州)

・子ども達による歓迎行事は目頭が熱くなると共に、指導された支援員の先生方のご苦労に頭が下がります。記念講演では、“子ども”・“子供”・“こども”の文字が持つ意味を知りました。

自然災害に見舞われた地域からの特別報告で、防災に対する意識を高める必要性を感じました。パイプ椅子でお尻が痛くなり我慢出来ず途中退席し会場最後尾で立って聞いていました。

分科会では、連絡協議会の活性化に参加し、北九州市連協の活動と課題をレポートしました。他地域でも同じような課題があり、日常でも交流出来ればと良いなと感じました。有意義な2日間でした。研究集会スタッフの皆様方に感謝致します。京急ドレミファ・インバーター車に偶然乗りました。ちょっと感激。市連協役員(N.S)

・いつも参加して一番に感動するのが子ども達によるオープニング歓迎行事です。

今回はけん玉とダブルダッチ。子ども達の集中力に感動します。そして無限の可能性を感じます。感動のオープニングのあと増山先生の記念講演。沢山の事を考えさせられました。本来、子ども達は自由でいいのに、沢山の事に縛られ、自然体からかけはなれた気がします。遊びの中から沢山の事を覚えていく。忍耐力、集中力、コミュニケーション能力等多くの事を自然体で学ぶ事のできる場が学童保育だと思いました。わたしはストレスを抱えた子ども達ができるだけ自由に楽しみ、心の奥の苦しみを吐き出せる場となるよう支援できればと思います。学童が楽しい、また行きたい、と思ってもらえる学童に必ずします。

・今年も歓迎行事の子どもたちに感動でした。研究集会に参加して、子どもの気持ちに気づける支援員になれる様に日々努力、勉強をしていくことが必要と感じました。研究集会に参加させてもらえて感謝です。来年も参加したいです～。(M.M)

・久しぶりの全国研でした。会場が視界に入った瞬間、「あそこはなにかのお祭りか？」と思う人の多さと盛り上がり！(笑)

会場の外まであふれ出している全国の支援員さん達の、キラキラとしている「やるぞ！！」という熱気を受けると「うおおおお～！！全国研だー！！」と、研修にも関わらずウキウキしてしまう私です(^_^;)

1日目。全体会の増山先生の内容が濃かったので、興奮冷めやらぬまま会場を後に。

夜ご飯のお店だけでは話足らず、ホテルに帰ってきてからも夜中まで支援員さん達と呑み明か・・・じゃ無かった、議論を白熱させていました(笑)

2日目、私が入った分科会は50名程度の規模でしたが、1日の半分以上は会場全体で、挙手制フリートーク。これはさすがに無茶じゃ・・・と思いましたが、さすが！！全国研に来る熱意のある支援員さん達、発言が止まらない！！各地の事例が出され、その事例に会場全体で悩み考えていく。

私も経験したことの無いタイプの研修でしたが、みんなで子どものことについて真剣に悩み考えるその時間は支援員さん達の温かさと、「どんな子も絶対に見捨てない、諦めない」という覚悟に満ちていました。(Y.M)

(北九州)

・全国研に参加して毎回感じることは、全国に学童保育の仲間がたくさんいること、当日係の保護者、支援員さんの笑顔の対応です。またオープニングでの子ども達の出し物も毎回楽しみで、元気をもらっています。

分科会では「市町村の連絡協議会づくりと活性化」に参加し、北九州市連絡協議会の歴史と現状、課題のレポート報告をしました。北九州の総会のまとめを基に報告し、北九州市への働きかけ、学童保育クラブまつり、夏の映画、指導員会の学習内容などを報告しました。

加盟率が少なくなっていること、役員を選出などの課題は全国どこも同じで、その中でも、あって良かったと思えるような連絡協議会にしていくためには、学習と交流の必要性を改めて感じました。(市連協役員 T.T)

・今回が初めての参加でした。まず、圧倒的な人の波、動員数に驚きました。全国で学童保育の問題に関して、こんなに真剣に考えている人がたくさんいるんだと、保護者として身が引き締まる思いでした。

初日の講演では、今日、子どもが抱く課題を学童で果たせる可能性があるというお話でした。やはり、留守番よりは学童に行っていて良かったと改めて思いました。

2日目の分科会では、興味があるテーマに分かれて参加することができました。普段気になっている悩みや疑問が解決できて、大変勉強になりました。保護者として、指導員の先生方とお話しし、さらに学童について理解が深まりましたし、もっと良くなるようにお手伝いしたいなと思った2日間でした。(J.S)

・今年度も参加させていただき、全国の支援員の皆さんからたくさんパワーをもらいました！

全体会では、震災の被災地にある学童支援員さんの報告が、まず印象に残りました。今年度の1年生は、震災後に生まれた子どもたちで、今学童には、震災を経験した子どもたちとそうでない子どもたちが一緒に生活しているとのこと。避難訓練の際の意識の違いなど、支援員として考えさせられる新しい課題もでてきているそうです。

このように報告していただけることで、私も改めて日々子どもたちとの暮らしを考えさせられます。

また、増山先生のお話も、指導員学校に引き続きとても勉強になりました。「子どもがこどもでいられる時間」を本当に大切にできているのか、子どもたちと一緒に考えながら、これからの生活をつくっていきたいと思います！ (M.M)



(福岡)

・全国研は3回目の参加でした。歓迎集会では可愛くてカッコいい、緊張しながらも頑張ってる子どもたちの姿と、それを優しく見守りサポートしてくれてる支援員さんに「たくさん練習してきたんだろうなあ～素敵だなあ」と感動しました。とてもあったかくて、子どもたちへの愛にあふれた集会ですね。参加している自分も元気をもらえ、明日のパワーにつながる研究集会でした。ありがとうございました。(T.T)

・今年も参加して、現地の方のパワーはすごいなーと感じ、しっかり学び充電してきました！交流会で去年も一緒に写真撮りましたよね？と若者に話しかけられたり、年々知り合いも増えてるのも嬉しいし、また来年会おうね！と新しい知り合いも増えて、とても楽しい交流会でした。

毎年参加して感じる事が違うのですが、今年は二度と戻らない子ども時代に、大人がどれだけ気持ちを考え、寄り添う、子どもと一緒に遊び、愛情を注ぐのか。

大人の都合ばかり押し付けてないか考えて、子どもを大切に育てていきたいと思いました。

(I.Y)

・4回目の全国研は今年も熱かった！オープニングのけん玉 USA は最高！増山先生の記念講演と分科会ではたくさんの学びがあり、夜の交流会は飲んで食べてけん玉で盛り上がり！子どもの放課後を保障してくれる指導員の方々に改めて感謝の気持ちでいっぱいになり、私ももっと子どもと向き合おうという気持ちになりました。また来年も行きまーす！(I.K)

・子どもが子どもらしくいることの出来ない今の競争社会で、どうやって子どもたちの権利を守っていくのか、増山先生の講話とても興味深く拝聴させて頂きました。こんなにたくさんの大人が、子どもたちのことを考えて学んでいることに元気をもらいました！(N.A)

・「学童保育は無罪刑務所」という言葉が印象的でした。まさに大人による「禁止／管理」(～シテハイケナイ／～シナケレバナラナイ)の学童保育所が多過ぎます。大人の言いつけを守る“健全”な子どもばかりを求めて、不健全な子どもを“はじき出す”(非難する、罰を与える、追い出す etc...) ような環境では、子どもたちは決して「育ち合え」ません。“子ども”が“こども”時代を謳歌し、子どもの「発育」の権利を保障するための合言葉…「遊びは子どもの主食です」！！(I.N)

来年(第54回全国学童保育研究集会)は京都です！！

17年ぶりの開催 2019年10月19日～20日

<福岡からは近いですよ、たくさん参加しましょう。>